平成24年度重点メニュー紹介

全県でチェック事業の実践率向上へ

平成二十四年度がスタートし、公衛協事業も続々と始まる時節だろう。今年度、環保協地域活動支援センターでは、公衛協を対象に、四つの全県共通事業重点メニューを推奨していく。重点メニューとは、市町公衛協単位だけでなく支部・地区・学区公衛協でも実践できるプログラムであり、積極的に地域の公衆衛生活動に取り入れていただきたい事業だ。なお、写真のグッズなどは、健康感謝募金環保協配分金の一部を充てて作成しているので、これらを活用することで募金事業への理解を促すことにも繋げていただきたい。

◆　◆

【一万人のエコチェック事業】

県内の推進委員が各家庭で省エネにと取り組み、その効果を数値的に把握＝『見える化』する事業。平成二十三年度は二十六市町公衛協のうち、二十五市町公衛協が参加し、まさしく全県で取り組む事業となった。今年度は、新たに軽油と灯油の記入欄を設けるなど、地域の取り組みに対応したカードに更新している。

推進委員自ら率先して省エネ活動に取り組んでもらおうと始めた事業だが、昨年度の実践率は二十六％で、一昨年度の二十三％から伸び悩んでいる。そこで、今年度は〝推進委員の実践率五十％以上〟を目標に掲げて推進する。

なお、恒例となった広島県公衆衛生大会の「おたのしみ抽選会」では、新たに、実践率や省エネ効果が高かった公衛協に特別賞を用意する予定。ぜひ、推進委員同士で声を掛け合い、省エネ活動を実践し、カード回収率の向上につなげていただきたい。

【広島発・瀬戸内海美化大作戦】

「瀬戸内海」をキーワードに、山・川・海のつながりを見直し、次世代に住みよい環境を残すこと、継続して自然の恩恵を享受できる環境を維持することを目的にした事業で、今年度で二年目の実施となる。事業内容は、「地域清掃・美化」「水質改善・保全」「里地・里山づくり」の三つのテーマに区分され、公衛協が主体となり、一斉清掃や水辺教室、家庭排水学習、不法投棄撲滅運動などを展開し、市・町の環境づくりの動機付け、習慣付けにつながるように工夫して実施する。

事業申請毎にテーマに合った活動支援グッズを提供しているので、事業成果が期待できるグッズを選択して、活用してほしい。

また、今年度は事業ごとの活動記録（写真やごみの量、水質状況など）を蓄積し、広く住民に公表して、公衛協活動の理解・協力を広めることを目指す。

【一万人の食チェック事業】

健康を維持するため、毎日三食、バランスの良い食生活を送ることは大切な要素である。食品数が少なすぎると栄養が不足し、反対に食べ過ぎると肥満やメタボリックシンドロームを招きかねない。

この事業は、県内の推進委員自らが食習慣の現状を把握し、健康づくりにつなげるための活動である。強化期間に定める六月十九日から二十五日の一週間、一斉に毎日の食品数を数え、所定のカードに記録する。また、毎月十九日（食育の日）を定例チェックデーとし、定期的に公衆衛生推進手帖に記録することも併せて推進する。

取り組みを開始した昨年度は、十八公衛協が参加し、実践率は十六％（実践者千四百五十七人）であった。今年度は、事業の目的を整理し、実践公衛協の増加と実践率の向上により全県的な取り組みへと展開していきたい。七月十二日～十三日に行う「環境保健夏季大学」の「食チェック事業おたのしみ抽選会」など、遊び心を交えながら、健康づくりの一助となるよう、本事業を推進する。

【公衛協発ウォーキング事業】

最も身近で取り組みやすい運動、それがウォーキングである。ウォーキングは、体力づくりに加え、歩く中で目や耳から情報を受け取ることで脳が活性化すること、また、気分がリフレッシュするなどの効能が研究で判明している。

この事業では、公衛協が主催、もしくは他団体と協力し、健康づくりに有用なウォーキング事業を実施するもの。事業の中に、地域の「環境点検」を取り入れ、公衛協のPRとして活動紹介を行うなどの〝ひと工夫〟が事業成功の鍵である。ごみステーションの点検をコースに取り入れる、環境施設の見学とウォーキングを組み合わるなど工夫はさまざまだ。

こうした環境点検ウォークの実施は県内に広がっており、平成二十三年度は二十一公衛協が実施した。なお、実施公衛協へは、スタッフ用ナップサックと歩数計を提供するほか、必要に応じてベスト・腕章・ロードカウンターの貸し出しを行う。健康づくりのきっかけとして、アイデアを凝らしたウォーキングを進めていきたい。

◆　◆

＊事業の申請・報告等の様式は、環保協ホームページhttp://www.kanhokyo.or.jp/からダウンロードが可能。問い合わせ先　地域活動支援センター

江田島市大柿町で実施された、地区内のごみステーションを見て回るウォーキング（上）。ウォーキング支援グッズのナップサック（左下）、ロードカウンター（右下）

○ 広島発・瀬戸内海美化大作戦 ○

倉橋町で開催された桂浜の清掃活動。公衛協を始めさまざまな団体が主体となり浜を守っている（右上）。平成24年度の地域清掃・美化の啓発のぼり（左上）。水質保全・改善の支援グッズの油吸着材（右下）

環保協脱温暖化推進計画

CO2排出量の削減めざし空調改修

社会の一員として積極的に脱温暖化を

当協会は、平成二十二年三月に「脱温暖化推進計画」を施行して以来、電気・ガス・ガソリン・重油などの消費によって排出されるCO2の排出量削減に取り組んでいます。計画では、二十四年度までに基準年とした二十年度のCO2排出量から一〇％削減することを目標に掲げています。

目標を達成するためには、役職員個々の取り組みだけでは限界があるため、設備の改修や省エネ性能に優れた資材の導入などを積極的に進めています。昨年度は、四台の公用車を低公害車に更新したほか、事務室へのLED照明の導入や日差しが強い場所の窓に遮熱フィルムを施しました。

さらに、国の補助金を活用して、熱源を重油としていた一部の空調設備を電気式の省エネ型空調機に改修。これによって、CO2排出量の大幅な削減を見込んでいます。

当協会が、昨年度排出したCO2排出量は、約一七〇八トンで基準年に比べて〇・九％増加しました。しかし、昨年度の取り組みが下期に集中したこともあり、その成果は計画の最終年度である今年度に表れると試算しています。

先日、政府は、エネルギー・環境会議の合同会合において、企業や家庭に七月から約三カ月間の節電を求める電力の需給対策を決めました。これは、東京電力福島第一原発事故が発端となり、猛暑になった場合に慢性的な電力不足に陥ることを防ぐためのものです。中国電力管内においては、二〇一〇年夏に比べ、マイナス五％以上の節電に取り組むことが決定されました。中国電力では、節電意識が定着しているとの見解から、今夏の追加的な節電目標を二・五％程度としています。

当協会においては、昨年度に引き続き、空調設備改修やLED照明の導入、始業前の消灯などを通して節電に取り組むとともに、これからも社会の一員として、積極的に脱温暖化に貢献していきたいと考えています。

（総務課）

蛍光灯照明をLED照明に変更

公衛協基礎研修　講師派遣いたします

公衛協が主催する基礎研修に環保協から講師を派遣します。公衆衛生推進委員の任務や活動の進め方、健康感謝募金について理解を促します。

期　　間：４月～８月末日
対　　象：市町公衛協及び支部・地区・学区公衛協
研修内容：「2012公衆衛生推進手帖」を使用した地区衛生組織活動概論
　　市町公衛協の活動テーマに沿った学習　など
経　　費：派遣する講師及び講師が使用する資料に係る経費は環保協が負担し、その他経費は公衛協の負担とする。
申込方法：申込書に必要事項を記入の上、原則として１週間前までに、環保協地域活動支援センターへ提出する。

まずは電話にて
ご相談ください

財団法人広島県環境保健協会　地域活動支援センター　電話：082-293-1512　ＵＲＬ：http://www.kanhokyo.or.jp/